

佳作

本当のあいさつ

男鹿市立男鹿北中学校

二年 嶋宮^{しまみや} 美穂^{みほ}

私の学校では、寒さで凍える早朝から、日差しの厳しい日など、一年を通して登校してくる生徒や先生に、「おはようございます。」

と、声をかける人たちがいます。それは、私たちの学校の生活委員です。週に三日、生徒玄関の前に立ち、大きな声と笑顔で私たちを迎えてくれます。

ここで、なぜそんな活動をするのか、少し疑問になります。地域の人や近所の人へも、なぜこのような声かけが大切なのでしょう。小学校の時から繰り返し返されている、あいさつ運動。あいさつの大切さなんてみんな知っているのに。

私の近所は、お年寄りが多くを占めています。独り暮らしも少なくはありません。だからこそ私は、近所の人に会ったら自分から声をかけることを心がけてい

ます。お年寄りの多くは、私のことを知っている方が多いので、一般的なあいさつに加え、

「あー、美穂ちゃん、大きくなったなあ。」

「元気ですか？」

と、にこやかに声をかけてくれます。この何気ない会話こそが、人の少ない町でも活気を生む第一歩になっているのでしよう。その証拠に、私の近所の人たちは、おしゃべりが大好き！お年寄りがいつまでも元気でいるためには大切なことです。

そうは言っても、普段あまり会わない人や初めて会った人にあいさつをするのは、私にとっては緊張するものです。どのタイミングで言おうかなんて思っているうちに、通り過ぎてしまったことも何度かありました。

雪もともなった海風の強い日、私が学校へ向かう途中、雪かきをしているおばさんがいました。わたしは、「おはようございます。」

と普通に声をかけました。おばさんも、

「おはようございます。」

と返してくれました。ここまでは、ただのいつもの会話。私が、そこを通り過ぎようとした時、

「今日も寒いですね。」

と、おばさんが声をかけてくれたのです。私は、このおばさん知らないし、話をしたことがあるわけでもありません。少し驚いたけれど、なんだか嬉しくなつて、笑顔で、

「はい！」

と返事をしました。吹雪で風が冷たいというのに、顔がぽかっとしました。

次の日も、おばさんは雪かきをしていました。また、昨日と同じように声をかけてくれました。私は、ただ返事をするだけでなく、

「雪かき、御苦労さまです。」

と、緊張しながらも、自分から言うことができたのです。

通学路を歩きながら、私はなんだか、世界が違って

見えました。これまでは、どこか表面的で儀礼的な言葉の往復。でも今日は、相手の内面に一步近づいた手応えを感じました。そうか、あいさつって、深みのあるものなんだな、優しくくて温かいものなんだな。

昔から知っている近所の方は、お互いに助け合う大切な存在。そんな方々と、気軽で何気ない会話をする。それは、自分の状態を伝え、相手の状態を知ることができる重要なコミュニケーション。それが生きたあいさつ。

会ったことの無い人、話したことのない人へ普通に話しかけるよりも、たった一言、

「寒いですね。」

などと、付けたすだけで、心をほぐすスイッチを押すことができます。これが相手の心に伝わる言葉。地域と地域の輪を広め、人と人とのつながりを深めるチカラとなるでしょう。

今日もわくわくしながら、カバンを背負い、家を出ます。「行ってきます！」のあいさつとともに。